

「災害リハビリテーション～平時からどのように備えるか～」

1. 担当；

寺川 努先生（虹の里、理学療法士）

伊澤 健一先生（町立長沼病院、理学療法士）

吉岡 英章先生（牧田病院、北海道災害リハビリテーション推進協議会、作業療法士）

古郡 恵（北海道こども心療内科氏家医院、北海道災害リハビリテーション推進協議会、作業療法士）

2. 目的；

災害は北海道でも発生しており、自分の住んでいる地域や職場でいつ起こるかわかりません。「災害は備えあっても憂いあり」と言われています。備えていても想定外の事が起こりますが、備えていないと現場はより混乱するでしょう。

道内の453カ所指定されている福祉避難所の53%は、高齢者施設・障がい者施設に指定されていますが（厚生労働省福祉避難所指定状況調査結果。平成24年9月末）、もし大規模災害が起こった場合、みなさんの職場が福祉避難所になる可能性があります。あなたの職場では災害時のための備えをしているのでしょうか。平時からの備えはどのようなことを考えなければならないのでしょうか。

北海道理学療法士会の空知管内では、支部を中心とし災害リハビリテーションの勉強会を行っています。そこで、災害時にはどのようなことが起こるのか、平時からの備えについて、受援力を高めること（災害時にボランティアや支援を受け入れ体制を整える）について学び平時に備えています。その取り組みをされている理学療法士の講師の先生をお迎えして、地域での取り組みを伺いたいと思います。

講師の伊澤先生は、東日本大震災時に宮城県南三陸町で働いておられました。寺川先生は、元陸上自衛官として三宅島の災害派遣を経験され、東日本大震災時には茨城県古河市にて実習中で、病院内で患者様の搬送を担当した経験があります。

北海道作業療法士会の支部活動にも参考になると考えますので、多くの方々に関心を持ってご参加いただけたら幸いです。

また、災害時に私たちリハビリテーション職種、作業療法士は、一日もはやい復興のために、避難所、福祉避難所、仮設住宅において果たせる役割があります。私たちにできることも一緒に考えていきましょう。

3. プログラム

- ・挨拶。演者の紹介。プログラムの説明
- ・空知管内の災害リハの取り組み
 - ①伊澤 健一先生 「東日本大震災（南三陸町）での経験と空知支部勉強会について」（町立長沼病院、理学療法士）（45分）
 - ②寺川 努先生 「日ごろの職場での備え、被災地での携行品について」実際に触ってみます。（虹の里、理学療法士）（45分）
- ・質疑応答
- ・アンケート

北海道災害リハビリテーション推進協議会は、年に2回、研修会を行っております。ぜひ、ご参加ください！（写真は研修会の様子です）

